

製材用丸太需要増加で杭用原木も不足

かわる資材供給勢力図

土木・外構 供給・価格動向

34

ウッドショックの影響は、土木用・屋外資材用にも及び、原木価格の上昇や原木獲得競争などを生んでいる。こうしたなかで、価格変動も他樹種の利用を検討する動きも出ている。

北海道の杭用丸太は、製材用丸太とほぼ同じ動きで、杭用原木の必要サイズは径85、18寸が主流。道内の建設事情に左右されるものの、21年は同サイズがバイオマス用チップや製材用、合板用にも使われたことで入手困難となった。

製品価格値上げとともに他樹種利用も

数量や流通量が限られたなかで、丸太価格はカラ松杭丸太用4寸×8、20寸が1万8000円(立方尺)とされる。

東北では、主に土木用木杭などの生産に利用されてきたカラ松小径丸太の価格が年明けから値上がりしはじめ、現在まで居所高が続いている。木杭に適した4寸×6、16寸径材の価格は昨年まで8000、11000円(同)で手当てでき、木杭製品価格は皮付き木杭1万3000円前後、皮むき木杭2万円前後、丸棒加工木杭5万円前後、防腐処理同製品7万~8万円前後で推移してきた。だが、現在は同丸太が1万2000~3000円まで値上がりしており、製品の大規模な値上げが必要になっている。



カラ松丸太は小径木でも製材工場に集められ、杭用原木の入手が困難な地域も増えた

県産材活用の流れなどから杉材の市場も広がりを見せている。あるメーカーは杉材の採用が増えたことで、現在はカラ松との使用割合は半分ずつ程度になっている。

杭用原木は4寸×6、20寸程度が主流となる。ウッドショックの影響で今年に入り、原木価格が高騰した影響は土木分野にも及んでおり、杉製品価格で3万8000円程度からの価格が付く。カラ松材は5万7000円程度からの価格水準だ。

メーカー関係者は「ウッドショック前比で原木価格は3割程度上昇しており、その影響を受けている」と説明している。用材の価格は、上昇は鈍いようだ。北関東の矢板製材の大手、

山平木材(群馬県沼田市、平田公平社長)は、ウッドショックによる丸太が値上がりする一方で、矢板などの製品価格があまり上がらず、当面は製品価格に見合う丸太を調達することで対応を進めている。

平田征三郎会長は「建築向けは製品価格が上がり、丸太も上がっても何とかなってきただが土木向けはそうはいかない」と話す。これまでは春先に仕入れた丸太を消費することでのしどきの採算が取れないという。対策としては「近場で伐採された丸太を工場着で8000~8500円(同)で購入するしかない。本日は製品価格を上げていく必要

改質水用いた新乾燥技術ウッド・ビー

乾燥時間短縮、優れた仕上がりで注目

フルタニランバー

フルタニランバー(石川県金沢市、古谷隆明社長)が、水処理事業者の澤本商事(同、澤本悟博社長)、建築事業者の大門システムス(同、大門明夫社長)と3社共同で取り組む木材乾燥システム「Woodbe(ウッド・ビー)」に注目が集まっている。

ウッド・ビーには他地域の木材業者が見学にも自社製品の乾燥や他の木材業者と連携して取り組む製品と開発で利用材を用いたシステム。乾燥炉内に敷き詰められた抗火石にSW1水を吹きかけて抗火石の赤外線効果で乾燥時間を短縮できる結果も得られている。

フルタニランバーは、自社で稼働するウッド・ビーを用いて乾燥時間は通常の乾燥時間より50%以上の乾燥時間を短縮できる結果も得られている。

100年史を発売

社会変化に対応する環境適応企業へ

大日本木材防腐

大日本木材防腐(名古屋市に工場を設置して古屋市、鈴木龍一郎社長)は、このほど、「大日本木材防腐100年史」を発売した。100周年を迎えた同社は、1921年(大正10年)、東京都で木材防腐剤の開発や防腐剤を注入した木製レールを用いて道路舗装を行う「日本舗装道路」として創業。翌年に鉄道枕木や電柱の木材防腐事業に参入。名古屋



全6章と資料編で構成されている

戦時の国策に邁進した「草創期」、戦後復興や外材への移行が進んだ「変革期」、オイルショック後にプレカット加工などにチャレンジした「創造期」、事業環境の整備からホールディングス体制への移行までを綴った「飛翔期」、現在同社を支える流通をはじめとする事業を紹介し、SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みで社会変化に対応する「環境適応企業」への成長を目指す決意をまとめた「明日への躍進」の6章及び資料編で構成されている。

北 浜 毎週木曜開市 電 048(798)0453	下館市場 毎週金曜開市 電 0296(30)7001	丸宇木材市売株式会社 本社 電話 03(6904)8141
大 栄 浜 毎週水曜開市 電 0476(73)7611	京葉市場 毎週木曜開市 電 047(442)6011	丸宇住宅資材株式会社 千葉営業所 電話 043(301)8101 成田営業所 電話 0476(73)7825